

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



おうひ

うつくしい王妃

エステル



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: Janie Forest

かいさくしゃ
改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick

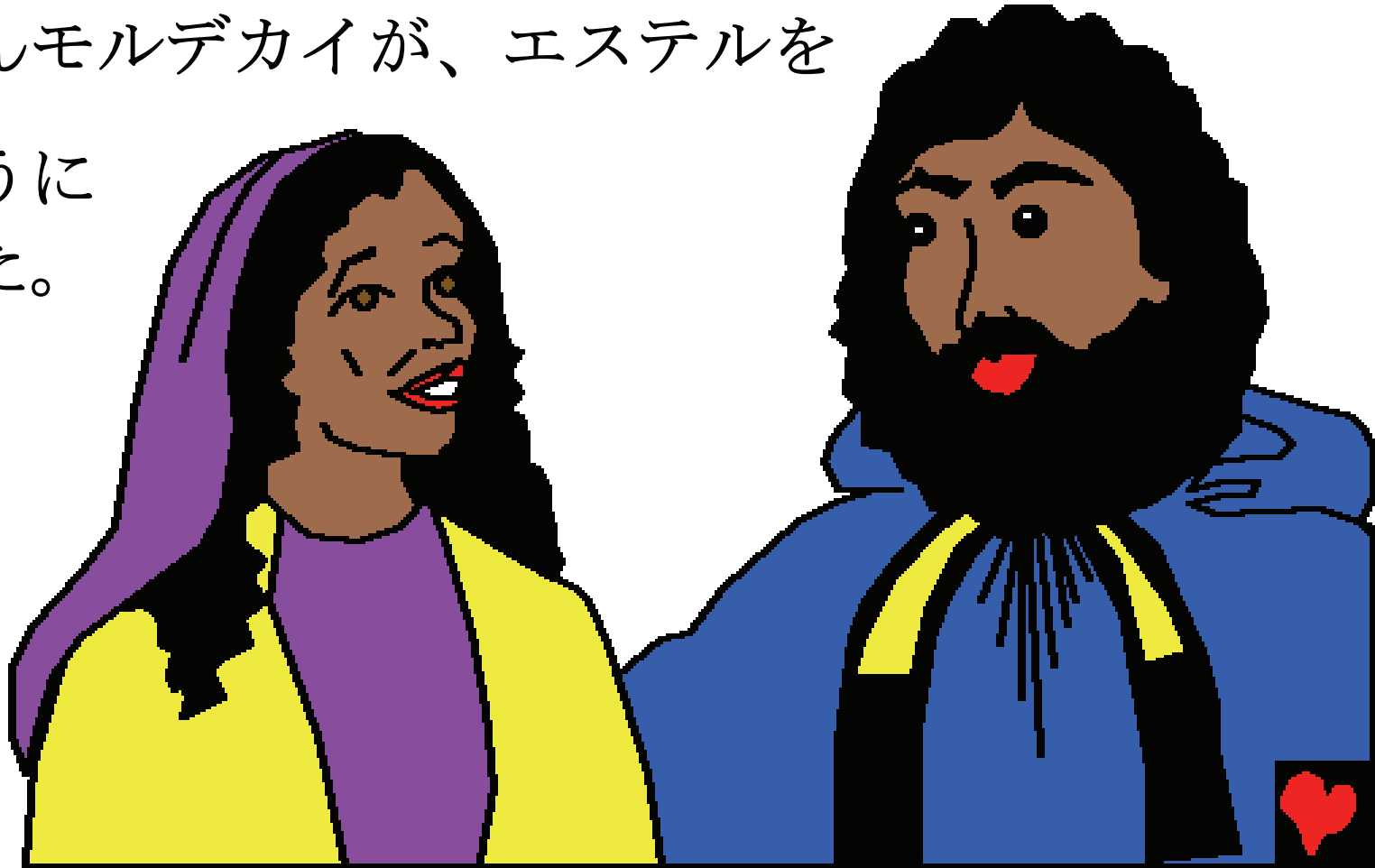
しゅつぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2010 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、
また きよか
又はプリントは、許可されています。



なまえ おんな
むかしのこと、エステルという名前のうつくしい女
こ
の子がいました。エステルのお父さんとお母さんは、
な かあ
早く亡くなってしまい、それからばかりの女
のおじさんモルデカイが、エステルを
そだ
育てるように
なりました。



エステルは、まるでおじさんのほんとうの
むすめのように！おじさんをそんけいし、
い き
言うことをよく聞くととてもよい子でした。





す
エステルは、ペルシアに住んでいました。でもね、
じん じん
ペルシア人では、ありません。ユダヤ人です。
じょ まえ
かの女のずっとずっと前の、...





...おじいさんやおばあさんたちは、せん争の^{そう}とらわ
れ人^{びと}として、ペルシアにつれて来^こられたからです。
エステル^{じだい}の時代には、たくさんのユダヤ人^{じん}が、
ペルシアに住^すんでいました。





あるとき、ペルシアの王さまは、
世界中の最高位おう たか くらいについている人
たちをあつめ、
大きな大きなおお おおえん会をひら
きました。



おとこ ひと

男の人たちは、みんなあつまって、

ごちそうを^た食べて

いましたよ。女^{おんな}

の人たちもまた、

ずっとはなれたとこ^{おうひ}

ろでワシュティ王妃
といっしょに、

えん会^{かい}をして
いました。





さけ おう
そのとき、お酒によった王さまが、

ワシュティにめ
いれいして、
い
言いました。

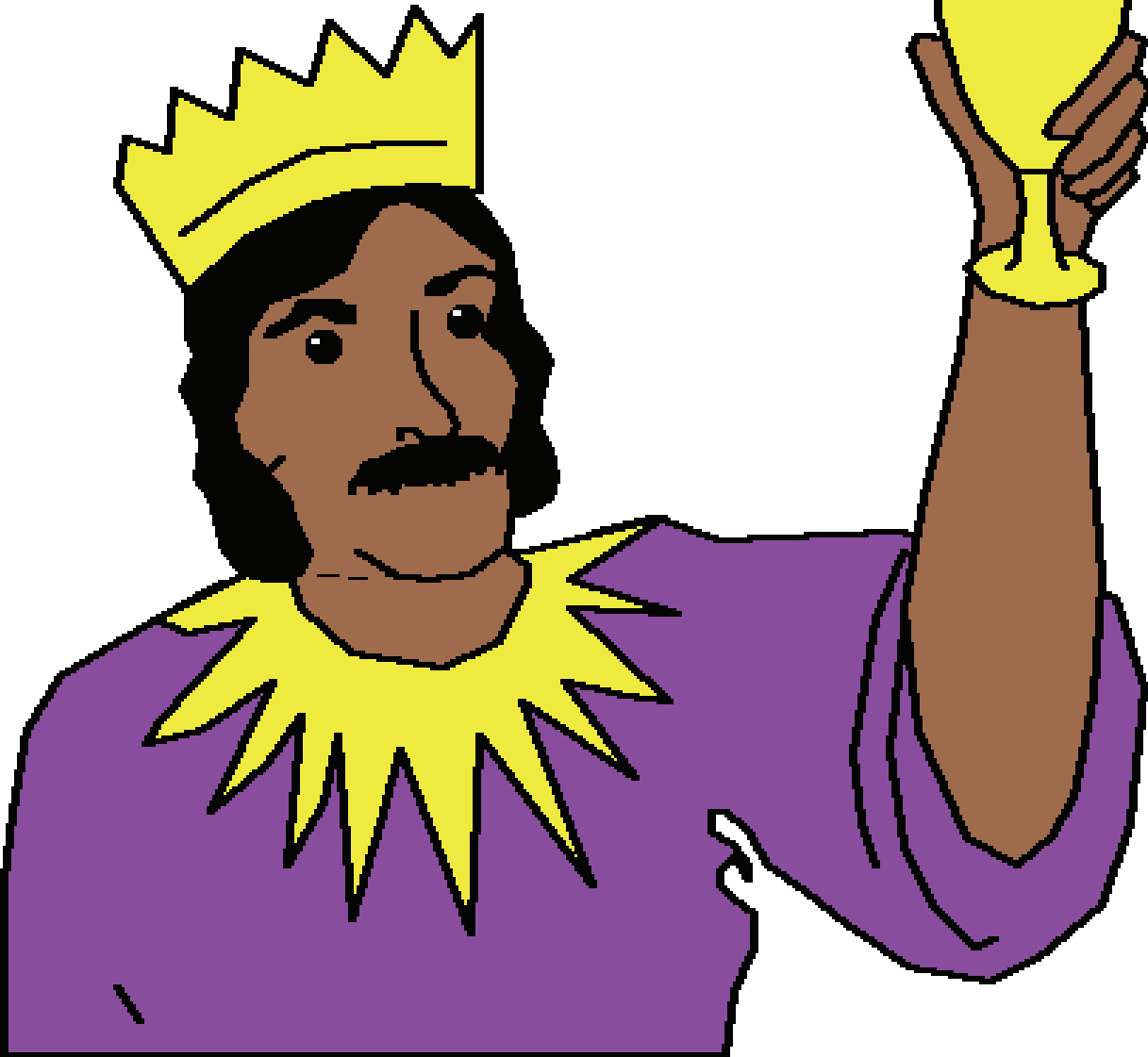
「ワシュティよ、

じょう

女王のかんむりを
かぶり、あなたが、
どんなにうつくし
み

いかみんなに見せ
てやりなさい。」





おうひ
でもね、ワシュティ王妃は、
ことわったのです。

「いいえ、
おう
王さま、
それはできません。
ん。」



おんな ひと じぶん

女の人、自分

おっと

の夫をうやまい、
したがわなければなりま

おう

せん。王さまは、このことを、

し

みんなに知らせるために、

法のきまりどおり、ワシュティ

おうひ

と

王妃のかんむりを取りあげて
しまいました。いまはもう、

おうひ

ワシュティは、王妃ではなくな
ってしまいました。



さて、あたらしい

おうひ

王妃さがしが、はじま

くに

りました。この国のたくさ

しょうじょ なか

んのうつくしい少女の中

おう

から、王さまは、いったい

じぶん おうひ

だれを自分の王妃にえら

んだのでしょうか。



そう、
エステルです。

おう

エステルが王さまのお
くさんに、えらばれまし

おう

たよ。王さまは、エステ

おうひ

ルのあたまに、王妃のか
んむりを、かぶせました。



そのとき、

エステルは自分^{じぶん}は、

ユダヤ人^{じん}であることを、

王^{おう}さまに言^いいませ^いんでした。

どうして^いって、おじさん

モルデカイ^いが、言^いわない

よう^いに^いって言^いった^いから^いです。





おじさんモルデカイは、
エステルがどうしてい
るんだらおもろうと思い、
きゆう 宮でいんの入り口を、
いちにち 一日いじゆう行ったり
き 来たり・・・。





ある日、かれは、宮で
ふたり
んではたらいている二人の
め
召しつかいが、ヒソヒソと
なに
何やらはなしているのが、
き
聞こえてきました。
おう ころ
どうやら、王さまを殺そう
けいかく
と計画しているようです。



おう いのち
王さまの命をすくわなけれ

おも
ばと思ったモルデカイ



は、すぐ、このことを
し
知らせたのです。それで、
ふたり め
その二人の召しつかいは、
くび
しばり首になってしまいました。
このことで、モルデカイ
な おう
の名まえは、王さまのき
ほん
ろくの本にのせられるよ
うになりました。



おう ちから
王さまのつぎに、力をもっていたの

よ かね おとこ
は、ハマンと呼ばれるお金もちの男の

ひと
人でした。みんなは、ハマンがおる

さ
たびに、あたまを下げておじぎをしま
したよ。あれっ、みんなでしょうか？



ひとり

いえいえ、一人だけおじぎしませんね。

ひと

じん

その人は、モルデカイ。ユダヤ人の

い かみ

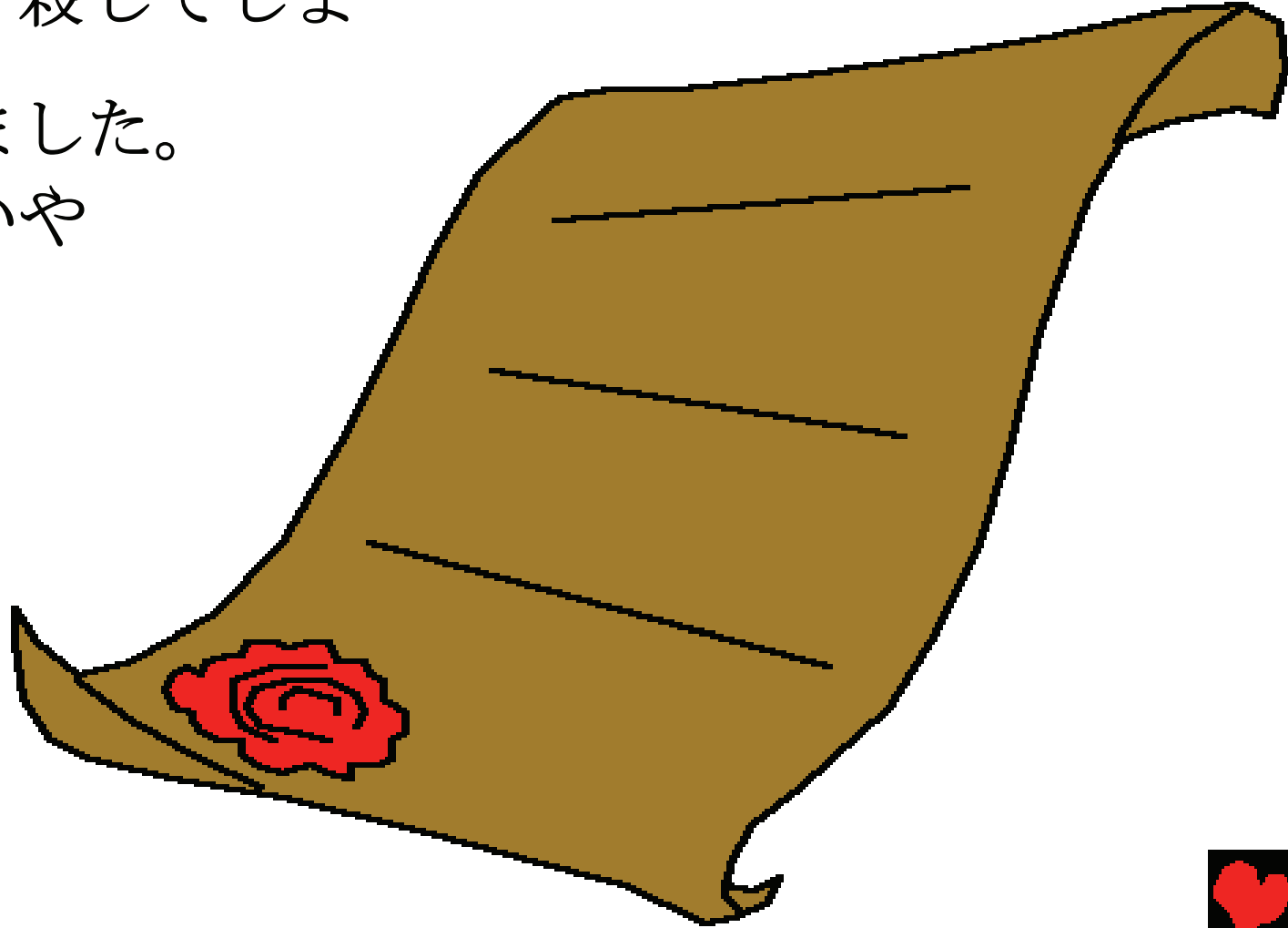
かれは、ただ生ける神さまにだけ、

さ れいはい

あたまを下げて礼拝しました。



ハマンは、モルデカイが大きい^{だい}です。そこで、
かれは、モルデカイとペルシアにいるユダヤ^{じん}
人ぜんぶを、殺してしま^{ころ}
おうと決め^きました。
なんてひどいや
つでしょう！



あくにん

おう

ほう

このひどい悪人ハマンは、王さまをだまして、ある法

ほう

き

にサインさせましたよ。その法には、あるときが来た

くに

ら、この国のすべてのユダ

ひとびと

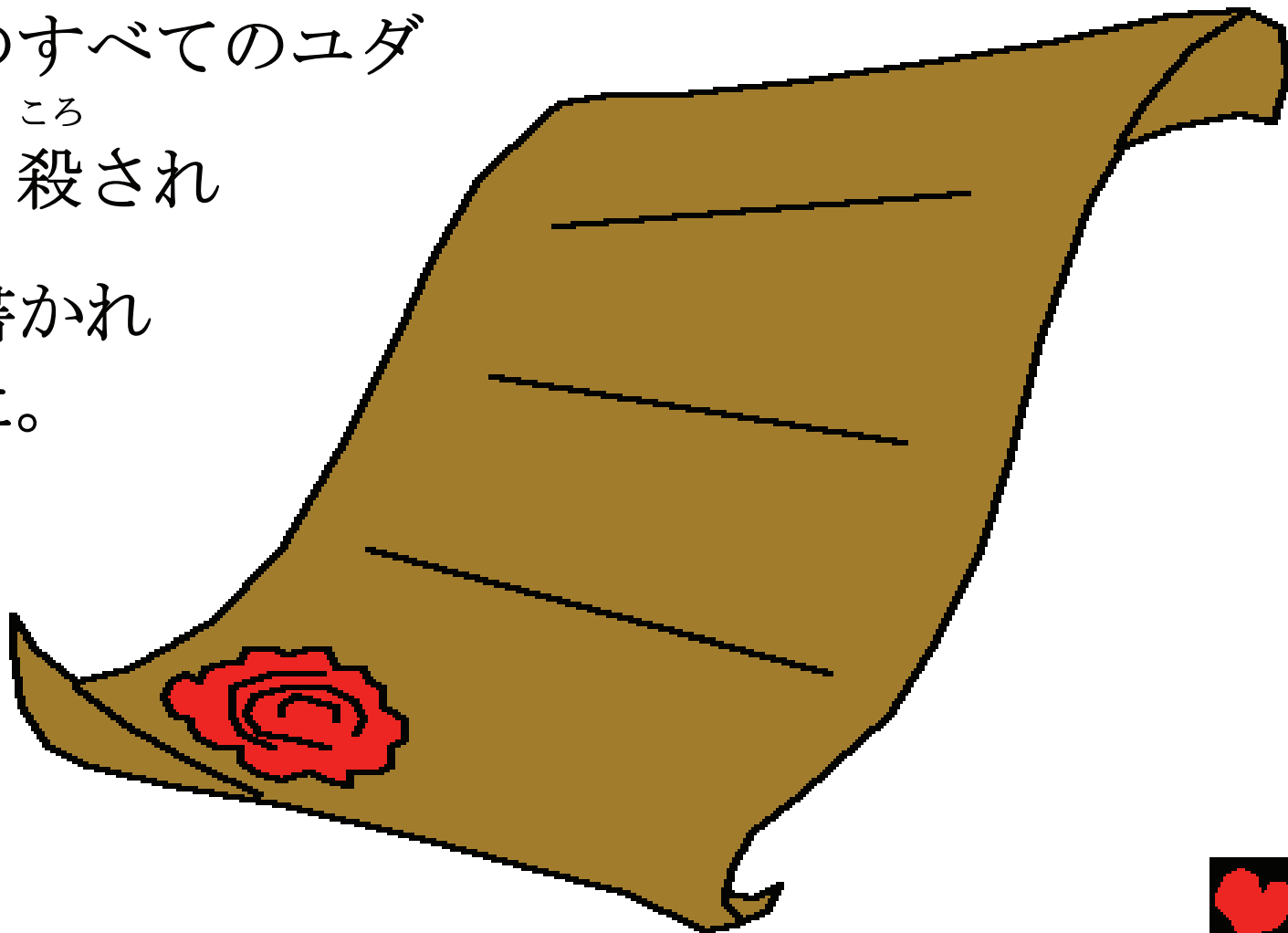
ころ

ヤの人々は、殺され

か

るだろうと書かれ

てありました。





ほんとうに、

ほう

ひどい法 ですね。

じん

じん

ユダヤ人もペルシア人も、
なげきかなしみました。でも、
みなさん、おぼえていますか？

かみ

神さまは、エステルを

おうひ

王妃にされたでしょう。

たしか、エステルはユ

ひと

ダヤの人でしたよ。





エステルは、
じぶん じん
自分がユダヤ人
っていうことを、
おう
王さまにひみつにし
ておくつもりでしょうか。
し
それとも、死をかくごして、
ひとびと たす
ユダヤの人々を助けよう
とするのでしょうか。



かみ

ほうほう

そのとき、神さまがエステルに、うまい方法をおしえ

かみ

い

てくださいました。エステルは、神さまが言われたと

かい

おう

まね

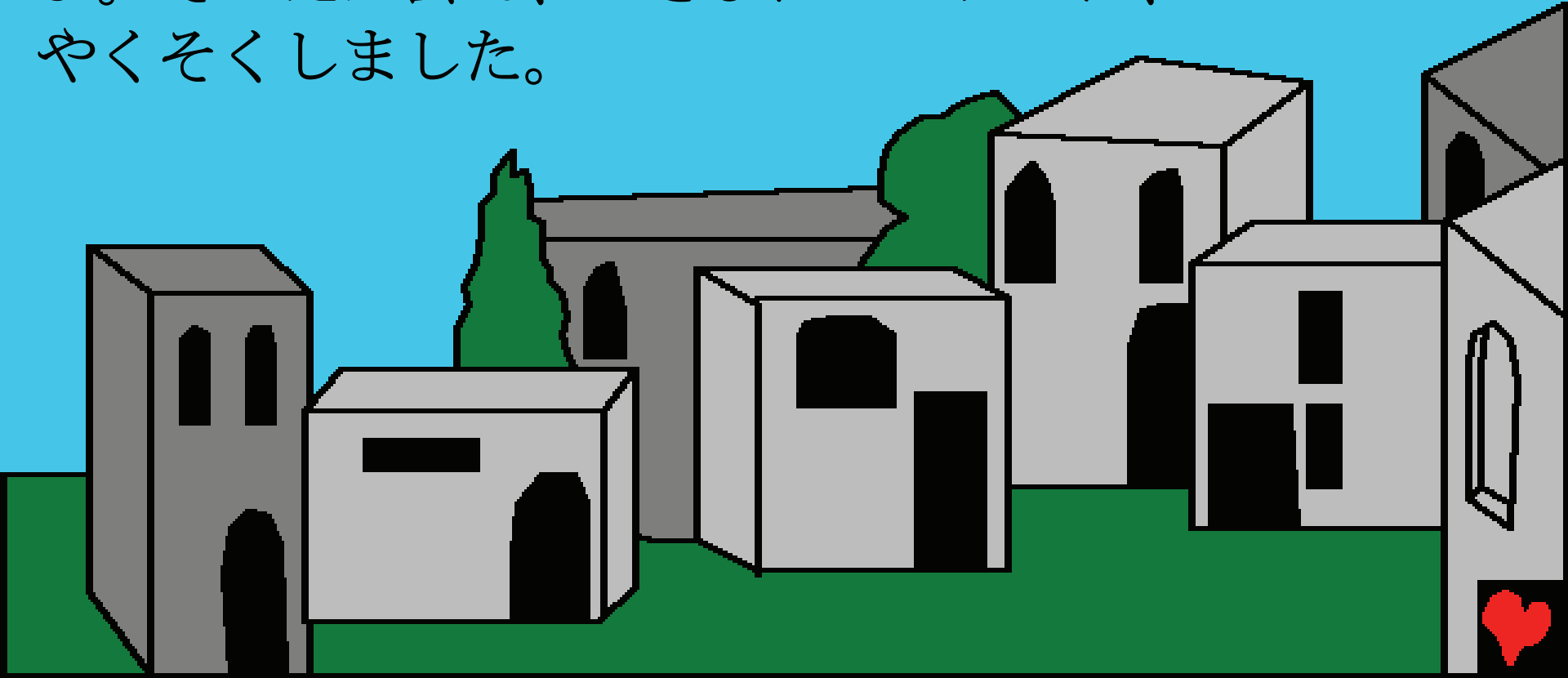
おり、えん会をひらき、王さまとハマンを招きました

かい

おう

よ。そのえん会で、王さまはエステルに、

やくそくしました。



「なんでも、あなたの^のぞむことを、かなえてあげよう！」^{おう}ってね。そこで、エステルは「それでは、王さま、^{かい}ハマンといっしょに、またえん会^きに来ていただけますか。あしたですけれど・・・」と、こたえました。そのときに、エステルは王さまに、かの女^おのねがい^いを言うつもりでした。



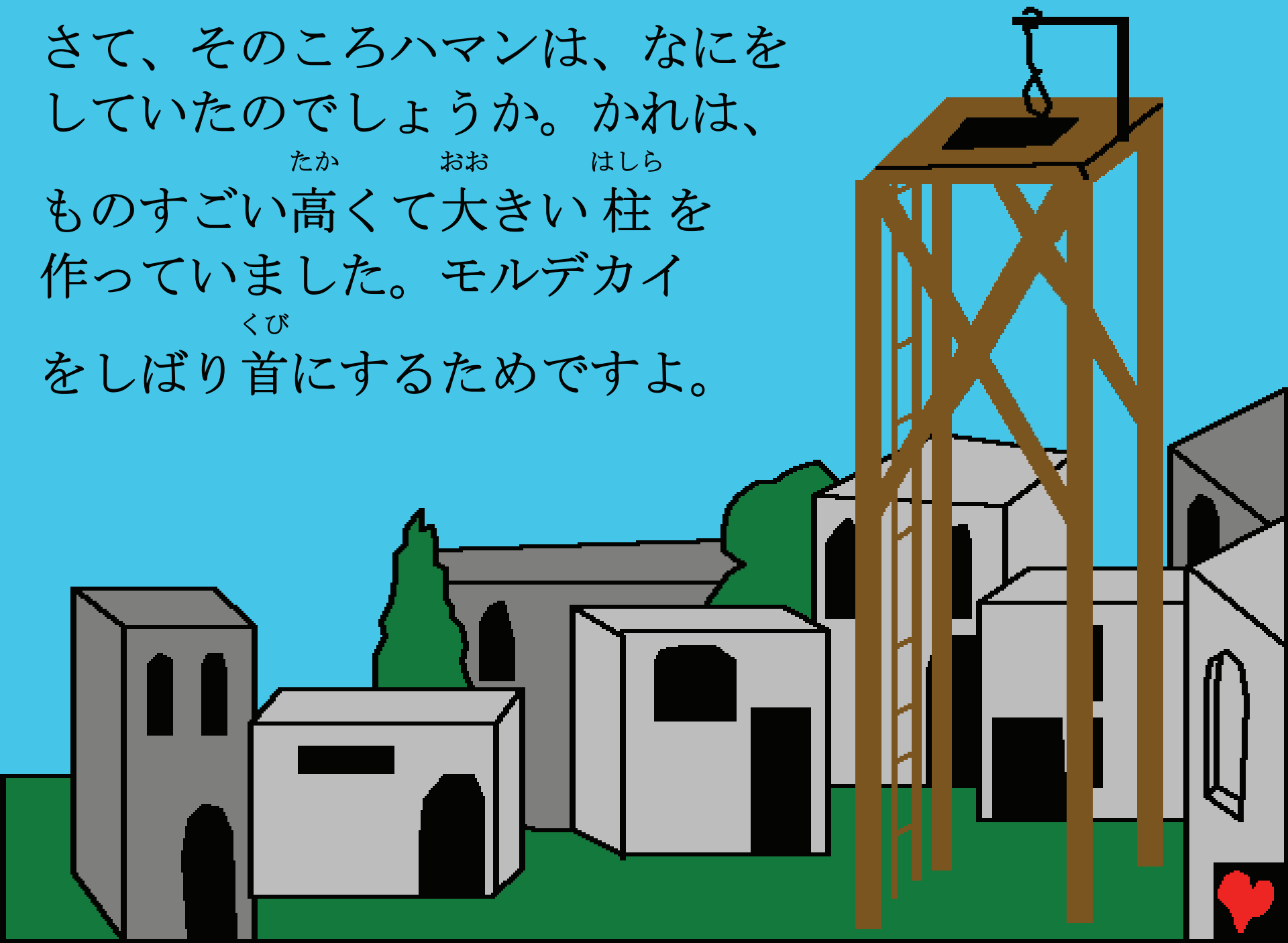
さて、そのころハマンは、なにを
していたのでしょうか。かれは、

たか おお はしら

ものすごい高くて大きい柱を
作っていました。モルデカイ

くび

をしぼり首にするためですよ。





そのよる、^{おう}王さまは、^{ねむ}なんだか眠れません。

そこで、^{おう}王さまの^{ほん}きろくの本を、

あけてよみながら、^き気がつきま

した。^{じぶん}モルデカイは、自分の

^{いのち}命を^{たす}助けてくれ

^{なに}たのに、何ひとつほ
うびを、もらっていな
かったのです。



つぎのあさ、王^{おう}さまは、ハマンにたずねました。「王^{おう}

をよろこばせた人^{ひと}に、いったいどんなことをすれば、いいのだろう

か。」それを聞いたハマンは、

大よろこび！ だって、

ハマンは、こう思^{おも}

ったからです。王^{おう}さ

まは、自分^{じぶん}のことを言

ってくださいってるんだってね。





じつは、その日、ハマンは王さまに、
モルデカイを首つりの刑にするおゆる
しを、いただきこうとやって来たのです。

首つりの柱は、
もうすっかり
できあ
がってい
るのです
から。



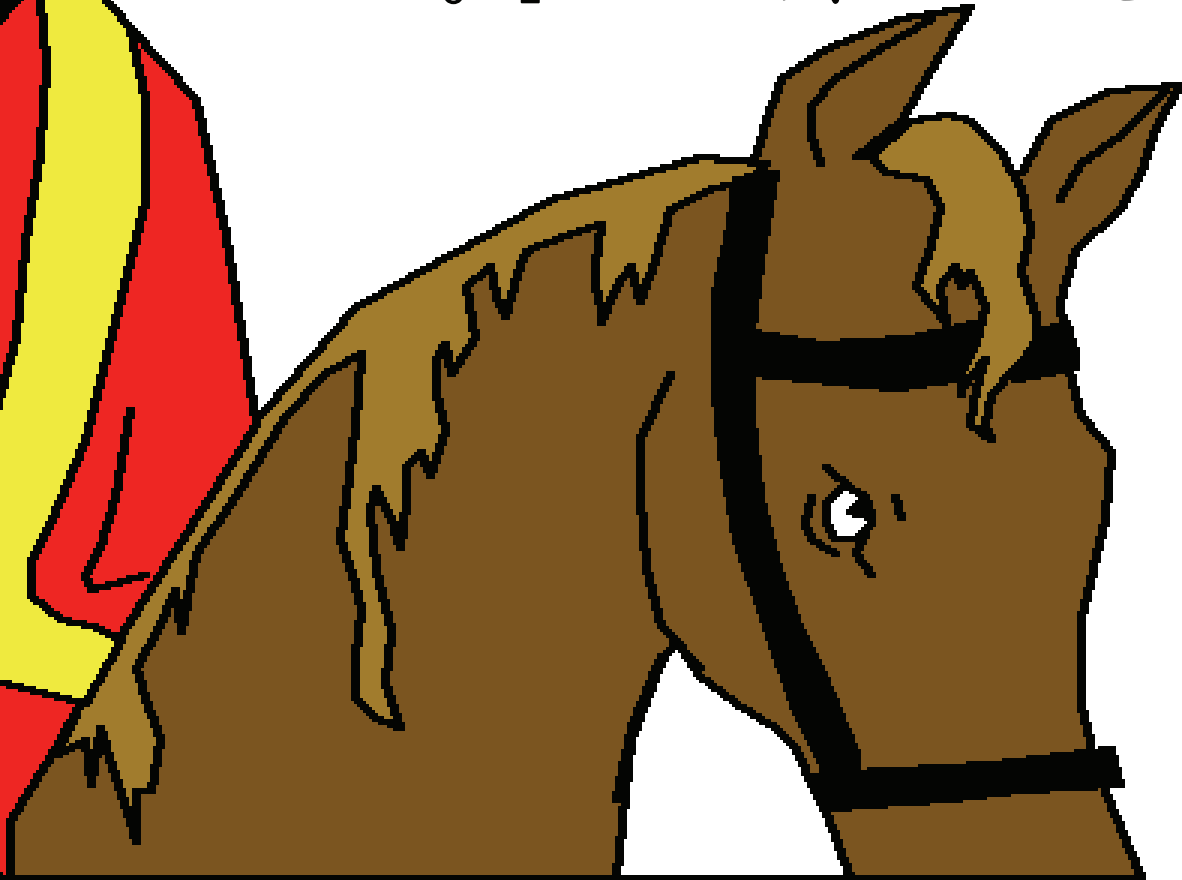


でも、もう少し待つことぐらい平気です。
それよりもハマンは、うれしくてうれし
くてたまりません。自分のかんがえを、
一気に王さまに、話しましたよ。



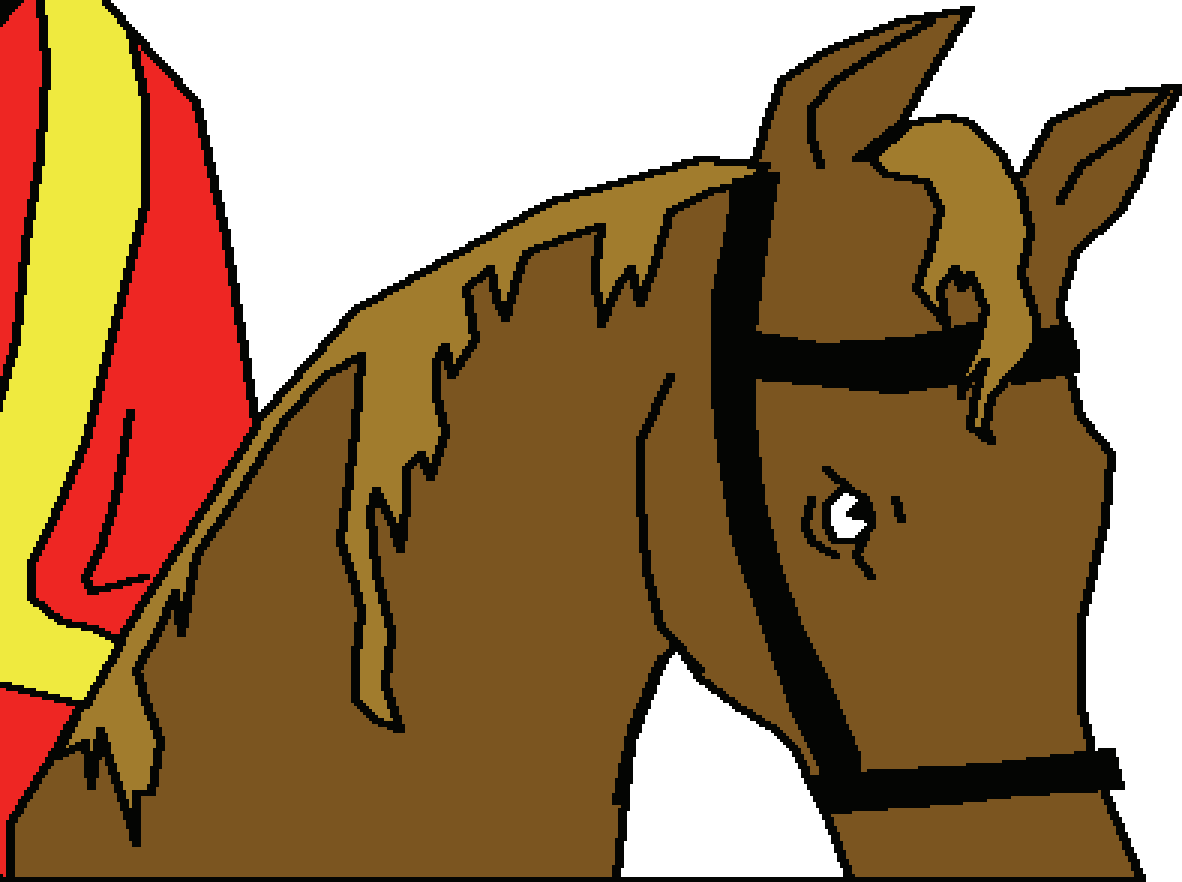


そして、王さまに仕える一ばんえらい者
にめいれいして、町のみんなが、その男
の人を見るように、あんないさせてくだ
さい。」「さあ、いそげ！」

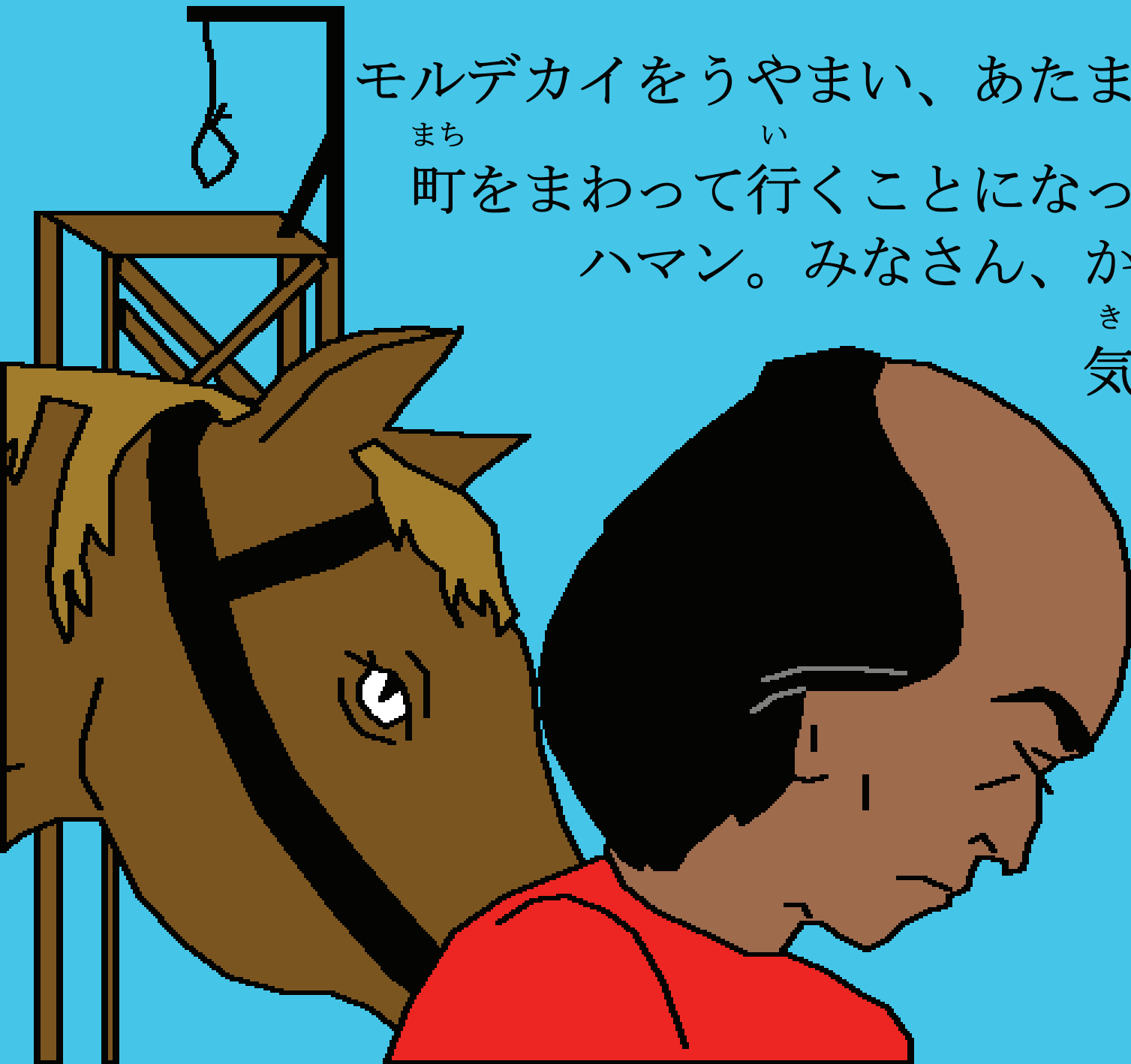




ユダヤ人モルデカイに、
おう
そのようにしてやりなさい！」王さまは、
ハマンに、こうめいれいしました。



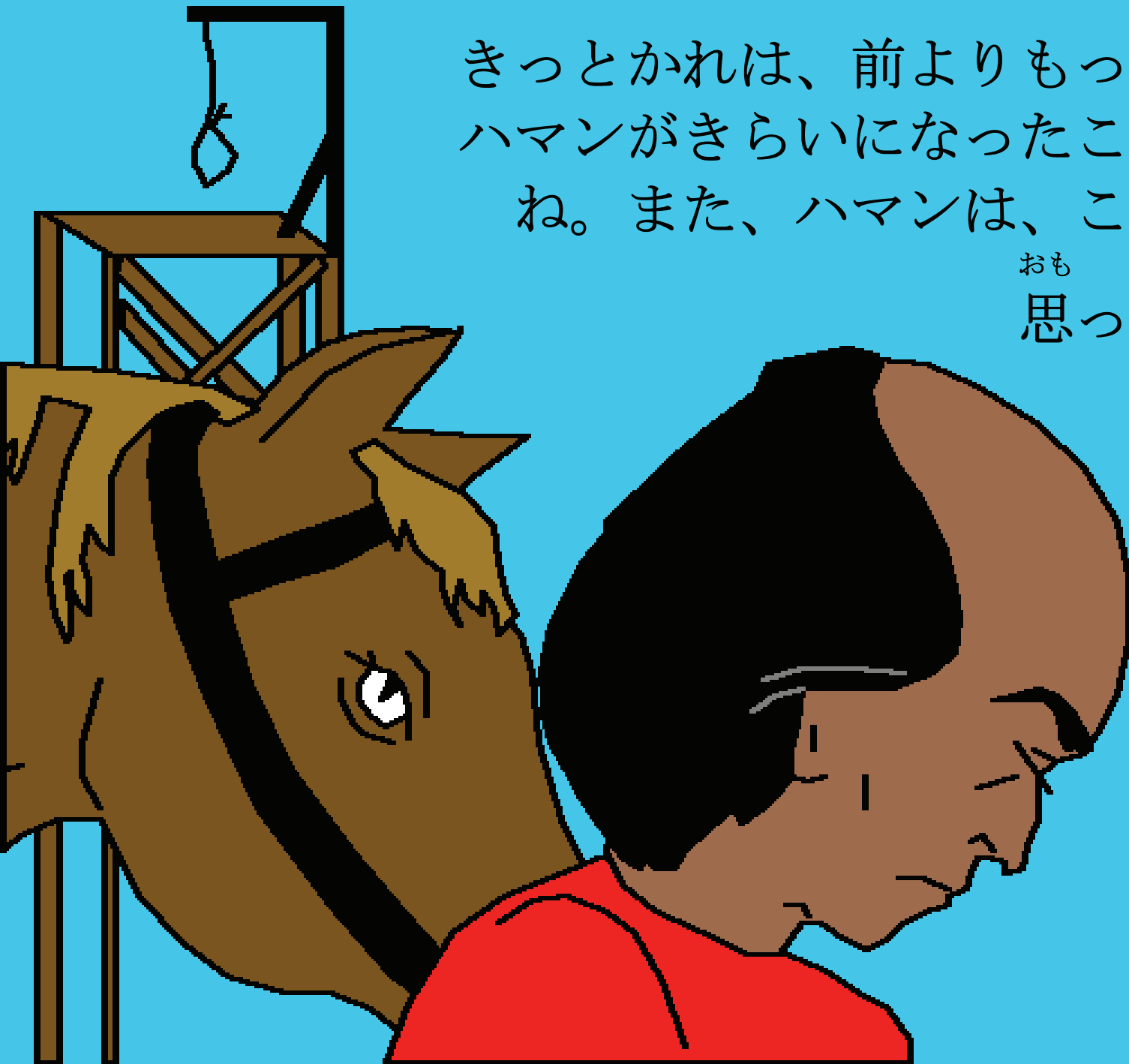
モルデカイをうやまい、あたまを^さ下げて、
^{まち}町をまわって行くことになってしまった
ハマン。みなさん、かれはどんな
^{きも}気持ちだった
^{おも}と思いますか。



きっとかれは、前よりもっともっと、
ハマンがきらいになったことでしょう
ね。また、ハマンは、このようにも

おも

思ったかもしれ
ませんね。





「うーん、ちょっと待てよ。^ま

モルデカイは、どうせ死^しんじまうんだ。

ほ^{じん}かのユダヤ人みんなといっ

しょにね。」

って。



ひ

おう

その日おそく、ハマンと王さまは、

おうひ

かい

王妃エステルのおん会に、

ちやく

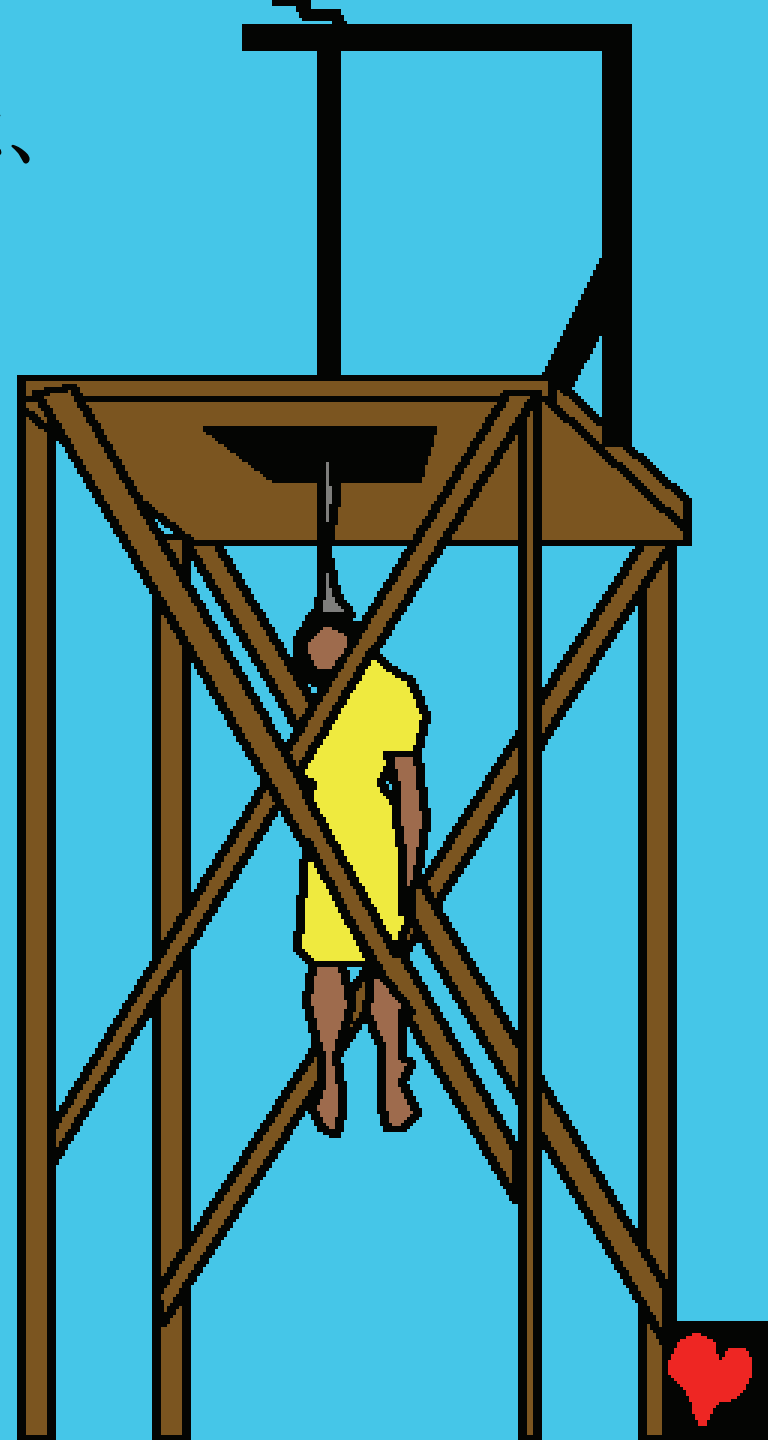
おう

とう着しました。王さまは、
そこでエステルにたずねました。

「エステル、あなたのねがいは、

なん

何でしょうか。」



おう わす
王さまは、やくそくを忘れてはい
ませんでしたね。そのとき、

おうひ ほう
エステル王妃はハマンの方
をゆびさしましたよ。そして、

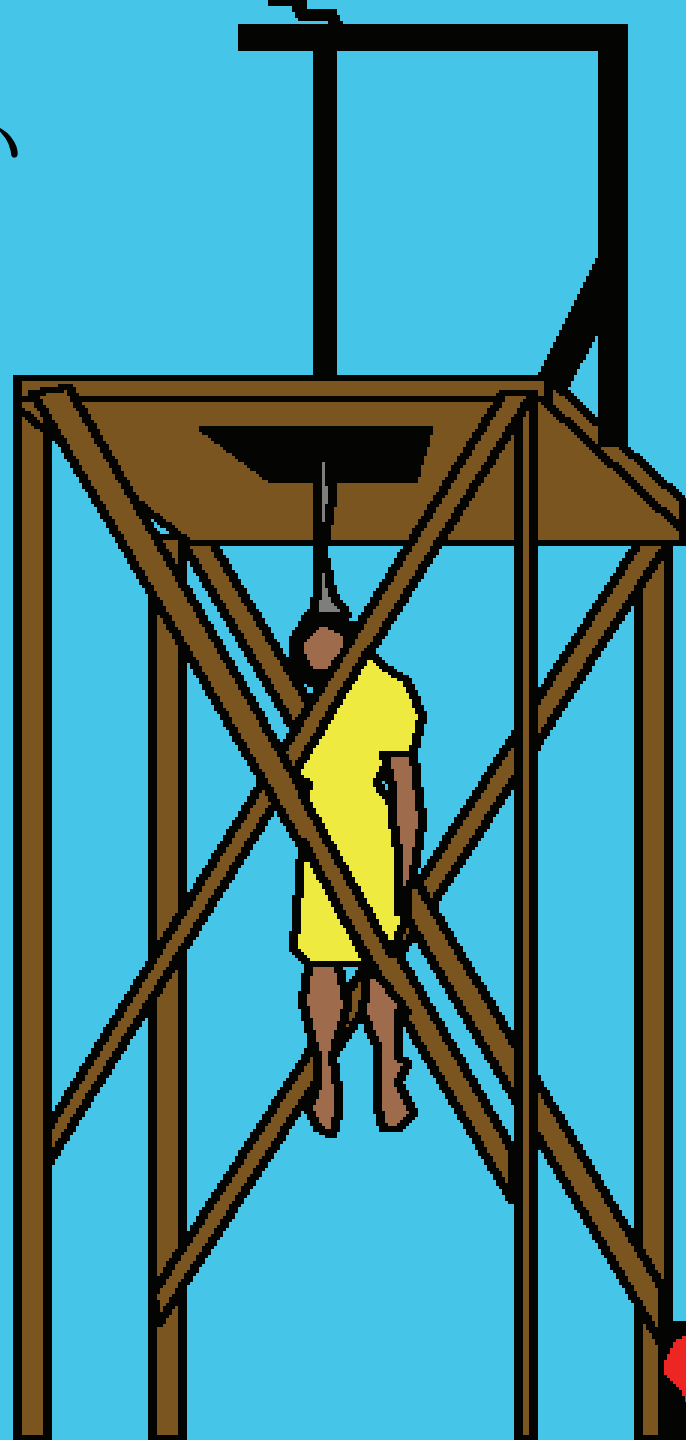
わる
ハマンの悪だくみについて、

おう はな
すべて王さまに話したのです。

おう
もちろん、王さまは、すぐに、

い
こう言いました。「ハマンを、

くび けい
首つりの刑にするんだ！」



おう

ひとびと

じぶん

それから、王さまは、ユダヤの人々が、自分たちで

じぶん

まも

ほう

自分たちを守ることができるよう、もうひとつの法り

つく

つを作ってくださいました。ほんとうによかったです

ころ

ね。殺されずにす

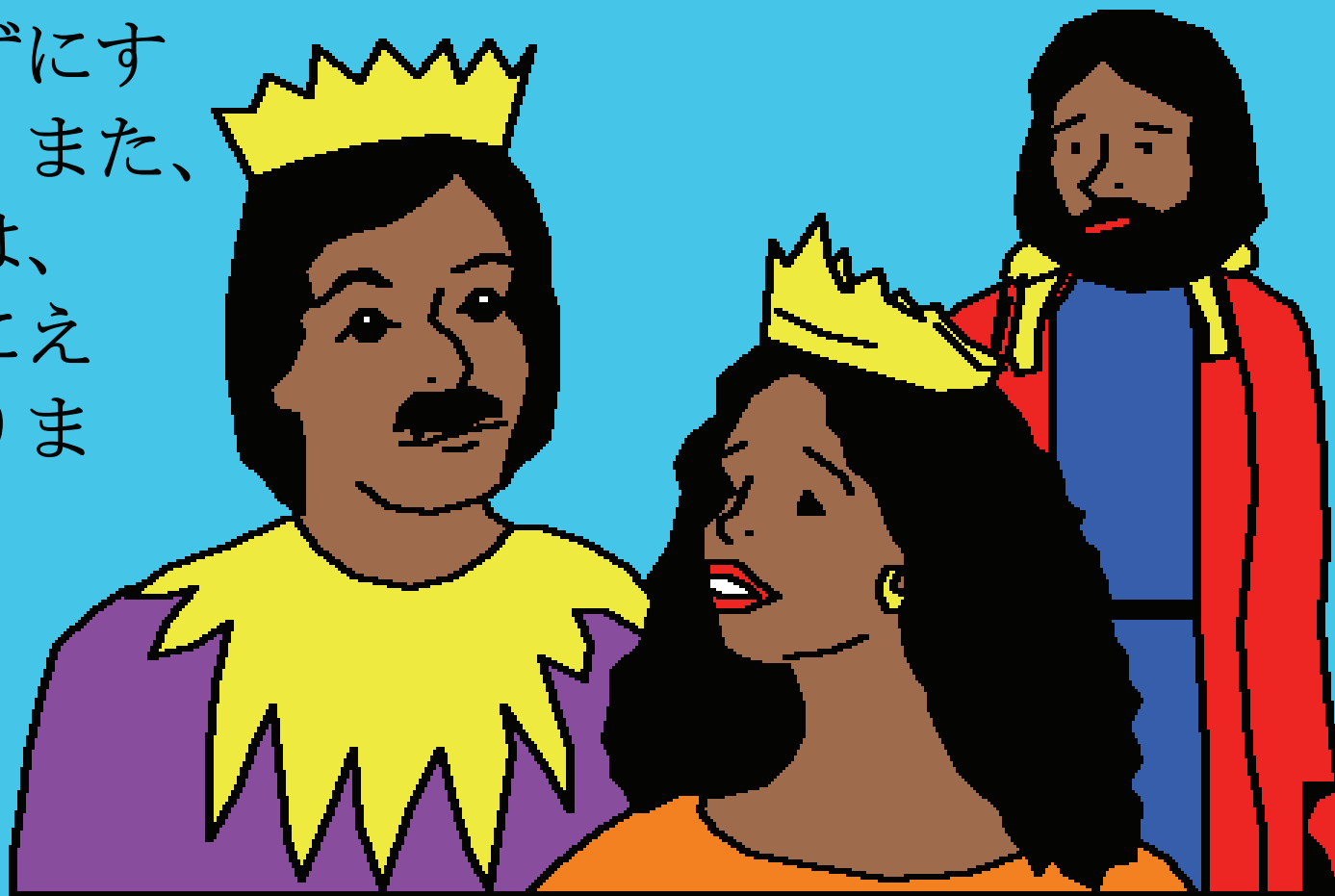
んだのです。また、

モルデカイは、

王さまの次にえ

らい者となりました。

した。



人々は、おたがいに^{もの}おくり物をして、^{こころ}心からよろこび

あいましたよ。ユダヤの人たちは、^{ひと}今でも^{いま}決して^{けっ}わす

れていません。^{かみ}神さまが、うつくしいエステル

^{おうひ}王妃をとおして、
どのようにかれ

^{たす}らを助けてくだ
さったかという
ことを。



おうひ
うつくしい王妃 エステル

かみ み せいしょ しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

き
エステル記

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまに
かみ かみ
ついて、おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことを
おも
しってほしいと、思っています。

かみ わたし
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、しってい
かみ つみ つみ
らっしゃいます。それを、神さまは、罪とよばれています。その罪の
し かみ あい
むくい、死です。けれども、神さまは、あなたをととても愛してい
ひとり こ よ おく
らっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、この世に送って
つみ じゅうじかじょう な
くださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられ
てんごく
たのです。けれどもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のい
しん
えへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさまを信じ、ゆる
してくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてください
いま ところ き なか
ます！イエスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に
す い
住んでくださいます。そして、いつまでもイエスさまといっしょに生
きるができますよ。



もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言っ
てください。

愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人とな
り、私たちの罪のために亡くなってくださいました。そして、よみ
がえって、いま生きて

いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるして
ください。それで、私は今、あたらしい命をいただけます。そし
て、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにい
ることができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子とし
て生きることが出来ますよう、たすけてください。アーメン

まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによ

る福音書 3 : 16

